

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町65  
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175  
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

## 平和なクリスマスと正月の向こうに居る人々

管区事務所総主事 司祭 ローレンス 三鍋 裕

過ぎ去ろうとしている一年を振り返りながら、今年お世話になったあの方にもクリスマスカードを差し上げなくてはと思っていたら、首座主教さまからメールが転送されてきました。パプア・ニューギニアのニュートン神学校の校長、プラザー・ジャスタスがパプアの山岳地帯を旅行中に急逝されたとのこと。医療機関のない僻地だったそうです。

ジャスタス校長は、電気もない土地で神学校のために多大な貢献をした方。1ヶ月2万円弱で生活していました。畑を耕す以外は神学生と同じ生活です。電気がないということは冷蔵庫もありませんから、食事は缶詰と芋、バナナ。礼拝学、 sacrament神学、教会史の専門家でした。アメリカにいれば不自由はなかったでしょうに、フランススコ会の修道者でしたから悔いはないでしょうが、アメリカには高齢のお母さまがおられるはず。この夏に神学校のチャペルの聖別に出席した僅か数日のお付き合いでしたが、忘れられない出会いになりました。早速後任を求めています、どなたかいかがですか。

貧しければ不幸とは限りません。貧しいなりに平和な人生が約束されているかもしれませんし。パプア・ニューギニアも山岳地帯では貨幣を使う習慣がない地域もあるそうです。しかし貧富の差が大きいと色々な問題が出てきます。そして医療と教育の問題は、貧しいから要らないとはいえません。以前にもご報告しましたが、このお国でも女性への暴力とエイズが大きな問題となっています。

2000年の日本聖公会の総会では重債務国開発協力資金が設立されました。ランベス会議とACC総会の決議を受け、全教区の、つまりは各個教会の、総収入の0.7%を拠出しようという精神で設立されました。同じ総会決議でもいろいろありますが、重債務国というか、貧しいお国への協力の決議は忘れないでいただきたいのです。

重債務国に対する債務帳消しはある程度進んでいるようですが、貧困の問題は少しも解決していません。日本聖公会で

## 会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加)  
および12月25日以降)

12月

- 4日(月)~5日(火)女性に関する課題の担当者会(京都)
- 5日(火)正義と平和委・日韓協働プロジェクト
- 5日(火)ウイリアムズ主教記念基金運営委員会
- 21日(木)日韓聖公会青年セミナー準備会

2007年1月

- 8日(月)正義と平和委員会・ジェンダープロジェクト
- 10日(水)主事会議
- 11日(木)教区制改革委員会
- 17日(水)礼拝委員会
- 18日(木)聖公会/ローマカトリック教会合同委員会
- 29日(月)~30日(火)文書保管委員会および作業会

2月

- 2日(金)ウイリアムズ主教記念基金委員会(立教大学)
- 5日(月)主事会議
- 5日(月)年金の将来を検討する特別委員会
- 6日(火)~8日(木)管区共通聖職試験
- 7日(水)常議員会
- 15日(木)祈祷書等検査委員会
- 20日(水)管区共通聖職試験委員会
- 26日(月)~27日(火)文書保管委員会および作業会
- 27日(火)~29日(木)主教会

<関係諸団体会議等>

1月18日(木)

NCC財政と機構検討及びビジョン策定特別委員会

1月31日(水)

聖公会生野センター理事会

※管区事務所冬期休業

12月30日(土)~1月8日(月)の間休業します。よろしくお願いたします。

は主に大齋克己献金から南アフリカ、ウガンダ、ミャンマーに支援金をお送りしていますし、細々ですがタンザニアの聴覚障害児の教育のため、タイにおけるエイズ患者のケアのため、パレスチナの子どもたちのために献金しています。それぞれ本当に貧しい中で困難な働きがなされています。残念なことです。貧困の解決よりエイズや戦乱から命を守ることの方が先だというのが世界の实情です。私たちが楽しく平和なクリスマスとお正月を祝うとき、病気の人、貧しい人、戦乱の中にある人々、そして電気もないところでそれらの人々のために奉仕している人々を憶えていただきたいのです。

カンタベリー大主教のメッセージを翻訳してこの号に掲載しています。彼の英語は高級すぎて日本語になりません。来年はどなたか助けていただけませんか。引用されている聖歌も原文

のままにしました。拙訳で読みにくいでしょうが、お読みください。「それは他者に全く目を向けない利己主義という牢獄を打ち破ることであり、私たちの生活の背後に存在する他の人々の苦難を当たり前としている怠慢を改めようと挑戦することです。ですからクリスマスは今私たち自身に問わせようとしています、誰の困難を当たり前として無視しているだろうか？」世界中の教会を訪ね、その働きを自らご覧になっている方としてのメッセージであると思うのです。私たちもすべての人々と、痛みと喜びを分かち合いながらクリスマスと新しい年をお祝いしたいと願うのです。



### 常議員会

第56(定期)総会期第3回 12月1日(金)

聖職常議員の出席者が定足数に満たず、協議のみ。

1. 2006年度管区一般会計収支予算承認の件
2. 2007年度管区一般会計補正予算案見送りの件
3. 日本聖公会管区事務所管理人規程(案)承認の件
4. 日本聖公会管区事務所職員給与規程(案)承認の件
5. 大齋克己国内伝道強化プロジェクト選定の件  
市川聖マリヤ教会浦安集会(横浜教区)より提出の計画について審議
6. 訓練計画資金運用規程(案)承認の件  
次回以降の常議員会

2007年2月7日(水)、4月18日(水)

### 主事会議

第56(定期)総会期第4回 12月6日(水)  
主な協議

1. 大齋克己献金「国内伝道強化プロジェクト」応援対象選定について  
市川聖マリヤ教会浦安集会(横浜教区)に決定。常議員会に議案提出。
2. 教会音楽研修会について  
開催費用に日本聖公会研修支援資金を充てる
3. 訓練計画資金運用規程について  
案を検討。常議員会に提出
4. パレスチナ子どものキャンペーン支援について  
大齋克己献金「宣教と奉仕活動のため」より100,000円を支出
5. バーンサバイ支援について  
タイのチェンマイでAIDS患者やHIV感染者に対して支援活動を行っているNGO「バーンサバイ」《\*baan=家 sabaay=快い、平安》を次のとおり支援する  
・2006年～2010年(5年間)100,000

円 / 年	2006年教区会選出常置委員			
・大斎克己献金「アジア・アフリカ支援」より支出 次回以降の会議 1月10日(水)、2月5日(月)	北海道	聖職 大町信也	大友正幸(長)	藤井八郎
		信徒 沖田紀夫	遠藤淳治	秋江申夫
各教区	東北	聖職 八戸 功(長)	中山 茂	越山健蔵
		信徒 小貫晃義	三宅 哲	長井 淳
北関東	北関東	聖職 斎藤英樹(長)	小野寺 達	輿石 勇
・聖職按手式 2006年12月22日(金)10時半 志木聖母教会 司祭按手 志願者: 執事 マタイ金山昭夫 執事按手 志願者: 聖職候補生 ミカエル浅見卓司		信徒 横川 浩	菊池邦杏	谷川 誠
・聖職按手式 2007年1月6日(土)11時 榛名聖公会 執事按手 志願者: 聖職候補生 テモテ鈴木育三	東京	聖職 大畑喜道(長)	笹森田鶴	山口千寿
		信徒 松田正人	小林幸子	山田益男
京都	横浜	聖職 相澤牧人(長)	前田 浩	三原一男
・「新しい聖歌集の学び」研修会 2007年2月9日(金)~10日(土)教区センター・聖アグネス教会 講師: 加藤啓子氏 (聖歌集改訂委員)		信徒 中林三平	宮崎道忠	甲藤善彦
	中部	聖職 市原信太郎	大西 修(長)	渋澤 一郎
九州		信徒 池住 圭	清 公一	徳山義章
・長崎に立つ2007~語り継ぐために ~	京都	聖職 宮嶋 眞	三浦恒久(長)	黒田 裕
		信徒 佐々木靖子	松本嘉一	三木清樹
	大阪	聖職 岩城 聰	竹内信義(長)	竹林徑一
		信徒 尼子美喜	槻本邦夫	畑野めぐみ
	神戸	聖職 芳我秀一(長)	小南 晃	上原信幸
		信徒 宮永好章	大東康人	橋口 満
	九州	聖職 小林史明(長)	堀尾憲孝	中村 正
		信徒 秋山献之	牛島康子	山本耕之
	沖縄	聖職 上原榮正(長)	高良孝太郎	戸塚鉄也
		信徒 大倉信彦	高嶺初子	知花阿佐子

2007年2月23日(金)~25日(日)問い合わせ: 柴本孝夫司祭(戸畑聖アンデレ教会)

## 《人 事》

### 東京教区

司祭 ニコラス中川英樹	2006年11月30日付	聖公会神学院出向解任。東京聖マリア教会管理牧師解任
	2006年12月1日付	聖アンデレ主教座聖堂付任命
司祭 エドワード鈴木裕二	2006年12月1日付	東京聖マリア教会管理牧師任命

### 横浜教区

<信徒奉事者認可> 2006年11月14日付 ミカエル田村 昇(静岡聖ペテロ教会)

### 中部教区

司祭 ミカエル村岡 明	2006年12月1日付	司祭テモテ土井宏純のもとで、軽井沢ショー記念礼拝堂において、囑託司祭とし
-------------	-------------	--------------------------------------

て勤務することを委嘱する。(任期:2007年3月31日まで)

### 九州教区

執事 バルナバ壹岐裕志	2006年11月22日	司祭に按手される
司祭 バルナバ壹岐裕志	2006年11月22日付	福岡ベテル教会牧師補の任を解く。
	2006年11月23日付	福岡ベテル教会牧師に任命する。
司祭 パウロ濱尾正直	2006年11月22日付	福岡ベテル教会牧師の任を解く。
執事 モニカ石田みち子	2006年11月22日	司祭に按手される
司祭 モニカ石田みち子	2006年11月22日付	直方キリスト教会牧師補の任を解く。
司祭 モニカ石田みち子	2006年11月23日付	直方キリスト教会・飯塚聖パウロ教会合同教会の牧師に任命する。
司祭 フランシス堀尾憲孝	2006年11月22日付	直方キリスト教会及び飯塚聖パウロ教会管理牧師の任を解く。

ダビデ中島省三(鹿児島復活教会)

2006年11月16日 日本聖公会聖職候補生に認可

## 新聖歌集のスタートとこれからの礼拝のために 礼拝音楽担当者会の構想

聖歌集改訂委員・礼拝委員 司祭 大岡 創

今年11月に「古今聖歌集」が50年ぶりに改訂され「日本聖公会 聖歌集」が発行されました。これまで永く用いられ、親しまれてきた聖歌集の改訂に際して様々な思いをお持ちになっておられることでしょうか。私自身も聖歌によって養われてきました。大好きな聖歌があり、その主日の礼拝を引き立てる聖歌があり、歌うことによって元気をいただく……聖歌の果たす働きには言い尽くせないほど深いものがあります。

今回の聖歌集の改訂作業には歴代の改訂委員のみならず、多くの方々のご協力があったことを感謝しなければなりません。12年に及ぶ改訂作業は時に困難を覚えたこともありましたが、聖歌の翻訳・詩作協力、また膨大な楽譜作成、索引データの処理、改訂ニュースの作成等々、の作業を惜しまずご協力くださった方々の働きがなければ到底、聖歌集を世に送り出すことはできなかったとさえ思います。

これまで12年にわたり毎年「教区礼拝音楽担当者会」が開催され、すべての教区を回ってまいりました。その担当者会において生まれた聖歌も含まれています。243番「かみのやくそく」、402番「まかれたみことば」、533番「主をあいそう」、538番「まよえるこひつじ」、これらの曲が生み出されるまでにどれほど多くの方々の詩作への熱い思いが注がれたことでしょうか。また、担当者会を通じて培われてきたネットワークも年を重ねるごとに広がりをもつようになってきました。

そこで、これまで積み重ねてきた担当者会の働きをさらに継承し、さらに発展させるために新たに「礼拝音楽担当者会」(仮称)を開催(できれば毎年)したいと考えています。主催は礼拝委員会(今後はこの委員会が聖歌についての意見や提案に対しお応えをする窓口になります)。また、各教区礼拝音楽担当窓口と共催

することや、2教区合同で「担当者会」を開催していくことも視野に入れて検討していきたいと思いをします。

新しい聖歌集が礼拝で豊かに用いられるために、例えば、この聖歌を用いてどんな礼拝ができるだろうか?といった事柄をともに分かち合えたらと思います。何より礼拝との関連を深めるための学びをするということです。

今までの担当者会は終わりましたが、新しい企画で今後も聖歌集の研究や礼拝との結びつきを深める学びをおこない、各教会への呼びかけができるようにしていきたいと考えています。さらに参加者の幅を広げて聖歌や礼拝についての新しい提言をしていただけるような集まりにしたいと思っています。

また、次の改訂に向けて新しい聖歌の発掘・詩作の足がかりを得ることができれば、さらに「礼拝音楽担当者会」への期待は高まります。

今まで以上にご協力いただければ、とてもうれしく思います。

新しい聖歌集が発行されたこれからはむしろ大切だと考えます。新しい聖歌集によってさらに豊かな礼拝がささげられ、教会の働きが増し加えられ、わたしたちの信仰が育まれますように、日本聖公会にとって「力」となっていける集まりにしたいと思いをします。

どうぞ、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

#### 📖 出版物案内

・『日本聖公会 聖歌集』

2006年11月1日発行 価3000円(税込)

**ご注文は聖公会出版へ**

(点字版のご希望は管区事務所へお問い合わせください)

#### --- 女性デスクから ---

2006年も終わりに近づき、主イエスのご降誕を待ち望む降臨節も半ばにさしかかりました。今年5月に開かれた日本聖公会第56(定期)総会で、「女性に関する課題の担当」を管区に設置することが決まりました。2010年までこの働きを託されたものとして、このコラムをいただき、年に数回のペースで当面の取り組みをお知らせし、また皆様からのご希望やご意見を伺うことができればと願っています。

今回は、京都教区からの呼びかけによって、各教区に「セクシュアル・ハラスメント防止委員会」を設けるためのモデルを策定するという、管区事務所としての宿題についてご報告したいと思います。

今日では企業や自治体、学校・施設など、人びとが生活し働いている現場で、ハラスメントと言われる問題が起こることを想定

し、そのような場合の相談窓口の設置と、問題の調査と解決に当たる責任を明らかにすることが求められています。神からすべての人に注がれている愛を分かち合うべき教会においても、残念ながらそのような問題が起こらないとは言えません。一人の元牧師によって引き起こされた性暴力事件を、長い間事実として認めることができなかった京都教区がその過ちを反省し、各教区でもこの課題に真摯に取り組むことを求めています。管区宣教主事に協力して、07年2月頃にモデルの提示ができるように努力しています。(総会で決議された時期より2ヶ月遅れになりますが。)

わたしたちの教会がすべての人の尊厳を大切にすることを求められ、祈りと関心を持って関わっていただきたいと願っています。どうかキリストの平和が、世界のすみずみにまで行きわたりますように。

女性に関する課題の担当者 /  
木川田道子、山野繁子

Archbishop of Canterbury's Christmas Message to the Anglican Communion

## カンタベリー大主教からのクリスマス・メッセージ



「サタンに囚われし人々を解き放つため、主はきませり」「聞け、喜びの声を」、これらは降臨節の私の愛唱歌です。ともすれば耳ざわりの良いやわらかいクリスマスの物語を好みがちな中であって、これらの聖歌はわたしたちの心を忘れられることが多いクリスマスの一つの姿に向けさせてくれます。

ナザレのイエスは生まれ、生き、死に、復活されました。なぜなら人類は自由を失っているからです。どんなに努力をしても、人類の歴史の始まりから神さまへの疑いと離反、そしてお互い同士の恐れのために男も女も畏に掛かってしまっているのです。人類はその歴史以前に始まったより大きな反乱に巻き込まれてきました。被造物の驕りと自己主張からくる神さまに対する反逆です。墮落した天使であるサタンは原始の悲劇の象徴として、もっとも高い位を与えられた存在であっても、自己主張によって墮落してしまうことを示しています。天使に与えられた知恵も霊的な尊厳も、この悪魔の自らの存在のよりどころである神さまを拒絶するという究極の狂気を止めることは出来なかったのです。

そしてこの知恵と尊厳の墮落は伝染病のように世界中に広まりました。私たちは真理や正義よりも少々低いレベルに生きていることは知っていますし実感してもいますが、どのようにして畏を抜け出すのかは知らないのです。イエスさまの生誕とご生涯は最初からわたしたちの思いをすべて変えようとするのではなく、実際に可能なところから変えようとするのです。それがわたしたちを解放するのです。

新しい基盤の上にわたしたちの尊厳を再確立

することによって、わたしたちを解放してくれるのです。神さまご自身が、子なる神さまが、自ら私たちと同じ人性をとられたことによって、すべての人類はその変革させるみ業によって動かされるのです。反抗という伝染は人間に伝えられる神さまの働き、良性の伝染といえるでしょうか、この広がりによって対処できるのです。まだ私たちは神さまとともにあるかどうかを選択しなければなりません、神さまはイエス・キリストにあって私たちを新たに創造することによって、先ずその扉を開いてくださったのです。

来年私たちはイギリス議会が奴隷制度を撤廃してから200年目を祝います。これは啓発された進歩的ヨーロッパ知識人が人間の平等を論理的に確信して成し遂げたのではなく、肉体をとられた神さまのみ言葉に抱かれた生命の尊厳を熱意を持って説得したキリスト者によって成し遂げられたのです。彼らは奴隷制度が奴隷とされた人々の尊厳に対する恐ろしい侮辱であることを知っていただけではなく、奴隷を所有する人々にとっても霊的な健全性と高潔さを損なう恐ろしい傷であることを知っていましたし、彼らが罪と貪欲によってもっと深刻に奴隷化されていることを知っていたのです。

クリスマスはわたしたちを解放します。そして

### 📖 出版物案内

- ・『2007年度 教会暦・日課表』  
2006年11月1日発行 価300円(税込)
- ・『日本聖公会法憲法規』2006年改訂 価  
630円(税込)
- ・『み言葉の礼拝』式文 2006年11月26日  
発行 価160円(税込)

ウイリアムス・ウィルバーフォースと奴隷制度撤廃を主張した偉大な人々の記憶が今日何か意味を持つとすれば、他の人々を解放するために私たちは解放されるということです。それは他者に全く目を向けない利己主義という牢獄を打ち破ることであり、わたしたちの生活の背後に存在する他の人々の苦難を当たり前としている怠慢を改めようと挑戦することです。ですからクリスマスは今私たちに問わせようとしていますが、誰の困難を当たり前として無視しているだろうか？ 今日の奴隷はどこにあるのか？ わたしたちのほとんどは何らかの答えを知っているわけですが、来年はこれらの問いに答えを求めるのに助けとなる行事が幾つもあります。子どもの兵士、性的売買の犠牲者、何十年も止むことのない暴力にさらされながら生きている人々、そしてこの暴力によって家や国を失った人々。

「囚われ人を解き放つため 主はきませり」す

べての人を解放する私たち自身の努力を通してこの世界に再び主をお迎えしましょう。そしてベツレヘムからカルバリーまでの、更にその先までのイエスさまの存在、み言葉、み業すべてによって解放されていることを感謝しましょう。

Our glad hosannas, Prince of peace,  
Thy welcome shall proclaim;  
And heaven's eternal arches ring  
With Thy beloved name.

この季節にあたりすべての祝福と幸いが皆さんにありますように。

+ローワン・カンタベリー

<http://www.anglicancommunion.org/acns/articles/42/25/acns4225.cfm>

すでに各教区・教会・施設あてにも送付しておりますが、日本聖公会正義と平和委員会は、下記のとおり、教育基本法改正についての緊急要請を作成し、安倍首相と伊吹文部科学相に送付いたしました。法案は可決成立しましたが、各教会、施設におかれましても、この件で話し合い、また、なお主の御心が行われるようお祈りください。

安倍晋三 首相 殿  
伊吹文明 文部科学相 殿

2006年12月7日  
日本聖公会 正義と平和委員会  
委員長 谷 昌二

### 教育基本法改正についての緊急要請

今、開会中の臨時国会で、政府・与党提出の教育基本法改正法案が、衆議院で可決し、参議院での審議も、公聴会の段階に入り、近く成立する極めて緊迫した情勢を迎えています。

私たち日本聖公会は、今年5月の第56(定期)総会決議第17号において、「教育基本法の『改正』」に反対する決議文を採択し、全教会に配布いたしました。今日、いじめによる子どもの自殺という悲しい事件の多発や、高等学校における必修科目の未履修問題が報じられ、この問題の解決が、

教育基本法の「改正」によって好転するかのときムードが醸成されています。しかしながら、私たちは、教育基本法の「改正」は、実は、日本国憲法の「改正」と一体であることを改めて指摘し、下記の理由により、この「改正」に反対し、「教育基本法改正案」を破棄するよう要請いたします。

### 記

- ・ 現行教育基本法は、1946年11月3日に公布された日本国憲法の精神を受けて、「この理想の実現は、根本において教育の力をまつべきものである」として、1947年3月31日に公布・施行されたことが、その前文で明らかにされています。今回の政府・与党提出の「改正案」は、前文からこの文言を削除し、「公共の精神を尊び」「伝統を継承し」の文言を新たに挿入し、現行憲法との一体化を避けています。
- ・ 「改正」案には、第2条に「教育の目標」を新設し、その5には「我が国と郷土を愛する態度を養う」という文言が明記されています。これは従来、小・中学校の「道徳」の指導要領にあった徳目を法定指導要領に格上げし、「愛国心」を国家が育て、これを評価の対象にしようとする意図があることは明らかです。さらにこれは、既に自民党が昨年10月に公表した新憲法草案に明記された「自衛軍の保持」と思想の符節を同じくするものであり、現行憲法「改正」の先取りに他なりません。

現行教育基本法制定に深く関わったキリスト者の南原繁元東大総長は、当時、「今後いかなる反動の嵐の時代が訪れようと、何人も教育基本法の精神を根本的に書き換えることはできないであろう」と述べています。しかし今、その精神が根本的に書き換えられようとしていることを深く憂慮し、私たちは、この「改正」に強く反対いたします。

以上

## 日本聖公会歴史資料の目録を刊行

管区文書保管委員会(委員長・宇津山武志司祭)では管区で保管する1994年までの資料の整理に取り組んできたが、このたび2006年4月1日現在で取りまとめた『日本聖公会歴史資料目録』を各教区・関係諸団体・歴史資料保管担当者宛てに送付した。同委員会は、これ以降の史料についても鋭意整理に取り組んでいる。

歴史資料としての目録の分類は以下の通り。

### 日本聖公会

総会・常議員会 監督会・主教会 教務院 管区事務所 略歴・要覧・手帳・統計 法憲法規等 記念行事 日本聖公会歴史 国外

教区・教会(北海道・東北・北関東・東京・横浜・中部・京都・大阪・神戸・九州・沖縄の各教区)

決議録 主教・事務所・委員会 定期刊行物 記念行事 教区史 教会史 団体・施設 その他

事業および団体

神学教育(初期神学教育・聖公会神学院・ウイリアムス神学館)

普通教育(初期普通教育・立教学院・立教女学院・香蘭女学校・平安女学院・柳城学院・プール学院・桃山学院・八城学院・松蔭女子学院・聖ミカエル国際学校、他)

幼児教育 特殊教育(滝乃川学園) 社会教育 医療事業 社会福祉事業 修道会(聖ヨハネ修士会・聖ミカエル修道



会・ナザレ修女会・エピファニー修女会・神  
愛修女会) 婦人会 青年会 日本GF  
S (代)日曜学校

外国ミッション

礼拝用書 祈祷書 聖歌・讃美歌 聖  
書

神学書・宗教書

個人 伝記・個人史 日記 書簡 思

い出・随筆

定期刊行物 日曜叢誌 聖書界 基督  
教週報 聖公会新聞

これらの史料の閲覧・利用については管区事  
務所までお問い合わせください。管理の都合  
上、原則的に火曜日のみ管区事務所での閲覧  
に限定されています。

#### ◆ 渉外主事報告から

### ダニエル農村指導者育成センター ( DIFTC ) のトレーニング開始

2000年5月開催の第52回総会で決議され  
た「重債務国国際協力資金」活用の一部である  
DIFTC ( Daniel Integrated Farming  
Training Center ) の活動状況を確認するた  
めに同センターが所属するミャンマー聖公会タ  
ウンゲー教区ウィルメ主教からヤンゴンにて報  
告を受けた。ミャンマー政府の規制のために現  
地視察が不可能ゆえこの様なかたちで報告を  
受ける事になった。

資金支援は2004年末に年間100万  
円、5年間支援をする計画でこのプロ  
ジェクトは開始した。2005年夏に施設  
の建設に着手し、2005年秋にトレー  
ニングセンターの建物が完成した。この建  
物はセンターの事務所、集合教室、宿

泊所等を統合したものである。(落成式の様子  
は「管区事務所だより」2005年11月号に写真  
とともに掲載しました。)

このプロジェクトはミャンマー聖公会タウ  
ンゲー教区が主体となって実行しているが、タ  
ウンゲー教区のみを対称にするのではなく、ミヤ  
ンマー全土を対象としている。したがって、2006  
年春に第1回のトレーニングを開始したが、参



畑仕事



養豚:丸々とよく太って

加者はミャンマー聖公会6教区から推薦された2名  
ずつの信徒計12名と一般参加者10名の22名で  
あった。このトレーニングが初回であったために、  
運営が試行錯誤で進められ、当初計画の教育期  
間の2ヶ月間より少し長く2.5ヶ月かかったそう  
です。秋に第2回のトレーニングを12名の参加者で

開催・終了したところです。

魚の養殖、養豚、養鶏、果樹園、農作業などの活動実習をしている。魚は貴重な蛋白源で、これを養殖して現地の人たちは現金収入を確保出来る仕組みである。

今後、年2回、2ヶ月の期間でトレーニングを継続する予定とのこと。



授業風景



第1回トレーニング参加者：  
中列左から2番目が責任者のスタイロ司祭

現地の視察は規制のために実現していませんが、将来視察が可能になり、訪問出来る事を願っています。現地視察が不可能なために沢山の写真を頂いて来ましたので、それを文章による説明の代わりにしました。

( 管区事務所渉外主事 八幡眞也 )

### フィリピン・ルソン島南東部台風による災害に緊急支援を行う

11月30日に発生したルソン島南東部(マヨン火山周辺)における台風の引き起こした泥流の災害の為の緊急支援を致しましたので報告します。

被害発生直後CCEAの仲間でもあるフィリピン聖公会と連絡を取り、災害の規模と緊急支援に関して協議しました。災害発生地域はフィリピン聖公会中央教区(Diocese of Central Philippines)の管轄ですが、この地域に聖公会の教会ないしは施設が存在していないことが

理由で直ぐに救援活動は開始出来ないと連絡を受けました。但しフィリピンの教会協議会(NCCP)は既に支援活動を開始したのでその組織を支援する旨依頼を受けました。

この様な経過で12月初旬に海外緊急援助資金からお見舞金として50万円をNCCPへ送金したので報告致します。まだ緊急支援活動が始まったばかりで、暫くすれば復興活動も始まると思います。どうぞ皆様この事をお覚えください。NCC経由で入手した現地の状況を以下に添付いたします。

.....

激しい雨と風以上に被害を深刻にしたのは泥

流でした。最近のマヨン火山の噴火によって積もっていた火山礫が泥流となってマヨン火山周辺の村々を呑み込みました。泥流は予測されておらず、また動きが速かったために、多くの家族が逃れることも出来ず、また逃れた人も何も持ち出すことができませんでした。

今年8月のマヨン火山の噴火による被害から立ち直って、意欲的に農場を復興しようとしていた矢先でした。フィリピン教会協議会の災害救援活動の担当者は、台風ドリアンが襲う1週間前に、その復興活動の支援のために訪ねたばかりでした。

大きな被害を受けたのはタガログ地方南部とピコル地方で、ピコル地方の中でも深刻なのはアルバイ州のレガスピ、ダラガ、セント・ドミンゴ、ギノバタン、カマリグです。近隣の州でも大きな被害が出ています。フィリピン教会協議会によると、11の州の694の村落にわたって93,582世帯(455,593人)が被害を受けた模様です。全体の一部に過ぎませんが、アルバイ州の災害対策委員会が集めたデータでは、495人が死亡、598人が行方不明、1328人が傷害を負ったとのことでした。



ルソン島南東部の惨状

アルバイ州では主に学校の敷地に42の避難所が設けられ、5000世帯あまりが収用されています。8m×8mの広さの各教室に22～40家族(80～200人)が詰められています。避難所がこのような状況なので、多くの被災者は土砂で埋まった家の側に掘り出した板などで仮設の住まいを作っています。被災地域のほとんどで停電しており、復旧までには2～3ヶ月かかる見込みです。

災害発生から一週間以上過ぎても、救援活動はほとんど進んでいない状態で、救援物資もほとんど入ってきていないとのことである。

(管区事務所渉外主事 八幡眞也)

## 《新刊紹介》

太田國男著

### 自分の十字架を背負って

筆者は日本聖公会執事。書名は、マタイによる福音書第16章24節による。この本には「ハンセン病療養所入所者の60年」という副題が付けられている。

著者は15歳で入所以来60年の歳月を療養

所で過ごした。偏見・差別と戦いながら、キリストに導かれ「いのちの尊さ」「人間の尊厳」を求めつつ、「自分の十字架を背負って」歩み続けてきた。太田執事がここ数十年間に執筆したエッセイを収めた本書は、長い辛苦の日々を感謝と喜びに変えた人生の記録でもある。著者はこれを「生前遺稿集」と呼ぶ。

第一章「やっとこ人生」は、自分史を中心とした半生の記録。不自由な指先を補助するのに欠かせない生活用具のやっとこと、やっとの思いで生きてきた苦勞の半生とを込めた表現であ

る。発病・療養所へ、人間性回復の運動、キリスト教への献身、結婚と伴侶の逝去、熊本地裁判決での勝訴と国側の控訴断念、福祉政策と人権問題...、と60余年の自分史と社会の動きを記しつつ、それらの事柄が常にキリストに従う者の視点から記述されていることを特筆しておきたい。

本書の内容に、広がりとお興行きを添えているのは、第二章「仮想現実の世界（パソコンライフ）」と、第三章「聖地への旅行記」であろう。第二章に記される「いのちの電子メール（心の相談）」の実践報告は、教会の外に向かって広げられる著者の伝道活動を中心とする記録である。第三章は、キリストの地へキリストの足跡を求めた旅の記録。同行した小林史明司祭（日本聖公会九州教区）の「太田先生は普通じゃない（聖地巡礼のうらばなし）」も添えられて、たいへんに読み応えがある。

日本聖公会北関東教区が2006年夏に、国立療養所栗生楽泉園内の聖慰主教会で開催した「療養所との新たなる出会い」の研修会には、太田執事は講師として出席し、「差別とは、心からの自覚の問題であり、命（生きること）の問題である。それは神様からいただいた命をどのように生きようとするのか、まさしく差別とは他人の問題ではなく、自分自身の問題である...」と述べられた。（管区事務所だより第209号・松浦信司祭「療養所との新たなる出会い」報告）

太田執事は本書の第二章・仮想現実の世界「“心をつないだ電子メール”をめぐって」の項で「自分自身の問題」として、自らの心の内にある偏見と差別心「謂れある偏見と差別」について告白する。「わたしがこの病気になって群馬県の国立療養所・栗生楽泉園に入所したのは一九四六年（昭和二一）でした。先に入所していた長兄が危篤になって（略）「今夜は俺と一緒に寝てくれ...。」とせがまれました。しかし、そのひどく変形した兄の顔を見て、加えて死相も窺える顔を見て「醜く、怖い!」と思いました。（略）兄と寝てやれなかった自分の心の中に潜んでいる偏見差別を誰が取り除くというのだろうか？ 偏見差別をした自分自身ではないだろうか。「謂れある偏見と差別」は常に心の中に潜んでいるのです。（105～106ページ）と記す一節は、まことに痛切な響きをもって読む者の心に刻まれる箇所である。苦難に耐え、自分の十字架を背負って生きてきたことの重さが、この一節の記述に凝縮されていることを、本書を読み終えた今、私は強く感じる。

本書は、苛め・教育の崩壊・格差の拡大・ワーキングプア・自殺...と、よくないことばかりが連続していく2006年の現実にあって、「自分の十字架を背負って」生き抜くことの意義を知らしめ、弱き者を限りなく励ましてくれる書でもある。

（A5判・ソフトカバー・229頁・定価1200円。発行・玄遊舎。購入は聖公書店で取り扱っている）  
（管区広報主事 鈴木 一）

☆☆☆☆☆☆☆☆

Merry Christmas and a Happy New Year!